

自然観察入門-IV

Introduction to Nature Observation IV

岩崎行伸*

湿地等の清澄な水辺に集まるトンボたち。トンボの仲間が多く観察されるところには豊かな自然環境景観がある。

トンボの仲間は、子供たちにとってアイドル的存在の昆虫の一つである。トンボの仲間は主として水辺に棲息している。一口に水辺といっても公園にあるような広い池から林の縁を流れる湧水まで、多彩な水棲環境がある。それに、水辺の環境によって棲息しているトンボの種類も大きく異なっている。

オニヤンマは林縁を流れる清澄な小川で観察されるのに対して、ギンヤンマは明るい広い水辺を好む。シオカラトンボは、水田等の日当たりのよい水辺で活発に飛翔している。

トンボの仲間は水棲環境指標生物である。観察されるトンボの種類や数が多い程豊かな自然環境が保持されているという証拠になる。

自然観察 : Field Watching



A



B



C

Photo by Y. IWASAKI

A: ウチワヤンマ、B: ショウジョウトンボ、
C: コフキトンボ (7/13, 麻機湿地/静岡葵)

自然観察：Field Watching



Photo by Y. IWASAKI

D：チョウトンボ、E：コシアキトンボ、
F：シオカラトンボ（7/20,麻機湿地/静岡葵）

ショウジョウトンボは、ビオトープ（池）や田んぼ等の夏の盛りに開けた明るい水辺で飛翔している。腹から顔まで真赤なトンボであ

る。アキアカネ等の赤トンボより一回り大きい。赤いのはみだけで、♀の色は薄茶色である。

ギンヤンマは頭から尾まで7cm程度。翅の長さ5cmという大型トンボ。飛ぶ能力は高く、広い池や田んぼ等の上を高速で飛翔している。市街地の水辺にも棲息し、縄張りが広い。

気候が涼しくなるとアキアカネ（赤トンボ）が登場する。爽やかな秋晴れの10月頃になると、赤トンボの群れが里山の空に乱舞する。アキアカネは、気温が30℃以上では棲息できないため、6月頃に平地で羽化した後、夏の間は気温の低い山地へ移動し、秋には平地に帰ってくる。

シオカラトンボは、市街地でも普通に観察されるトンボ。♂も♀も大きさは同じだが、体の色がまったく異なり、♂は黄色に小さい黒い斑紋がある。♀はその色からムギワラトンボとも呼ばれている。

夏、植物や生きものウォッチングの絶好の季節である。出掛けたフィールドで予期せぬ発見も多く、初めての生きものたちとの出会いが自然観察への興味を広げてくれることも多くある。

チョウトンボは、♂は翅が光によって紅色に輝る。まるでチョウのようなトンボ。池や田んぼ等で観察されるが、近年、殺虫剤の散

布で激変している。観察の時期は6～9月の間である。

参考資料

- 1) 野外観察図鑑-昆虫(1958):旺文社
- 2) 楽しい自然ウォッチング(2012):JTBパブリッシング、高橋久恵・編集
- 3) 自然観察入門- I & II (2015&2019)、東海大海洋 OB 会海鳴35号・47号、岩崎行伸著
- 4) 自然観察入門-III(2019)、東海大海洋 OB 会海鳴48号、岩崎行伸著

挿入写真

1) 湿地・池で観察されるトンボたち- I、Photo by Y. IWASAKI

2) 湿地・池で観察されるトンボたち- II、Photo by Y. IWASAKI

*会員：自然観察塾（塾長）、水棲&環境研究